

## ホットニュース

# 「文芸ゼミナール」で、作家の卵を育てています！

～「海音寺潮五郎記念文芸ゼミナール」今年度の受講生作品集「潮音」が3月に完成します～

鹿児島が誇る文豪、海音寺潮五郎氏の文業を讃え、その功績を後代に伝えるとともに、本県の歴史・文化・文学の振興や青少年の健全な育成を目的に行われている「海音寺潮五郎記念事業」。県立図書館では、海音寺潮五郎財団の解散に伴っていただいた寄付を元に、海音寺文庫の整備、貴重資料のデジタル化、文化講演会、県内の高校生を対象にした文芸ゼミナールといった事業を進めています。

文芸ゼミナールでは、出水沢先生、立石先生というお二人の現役作家を講師に招き、年間8回の講座を通して一人一作品を完成させます。



高校生の瑞々しい感性が、先生方の指導によって磨かれた言葉、洗練された文に仕上がっていきます。作品を仕上げるのは大変な作業です。受講生は「産みの苦しみ」を経験し、しかし、同時に表現する喜びも味わっているようです。

3月末には受講生の作品集『潮音』が完成します。当



出水沢 藍子 先生

立石 富男 先生

館ホームページに掲載しますので、ぜひお読みください。

作品集「潮音」

## 図書館で探そう、調べよう!

「虹が出てきて、『ふ』で始まる題名の絵本」

ある日の夕方、児童文化室に来室した男の子から、「以前、友達が借りていて、気になった絵本があるのだけれど、題名が分からなくて。」という相談を受けました。それは虹が載っている絵本ということでした。そこで、私は、絵本コーナーの「に」で始まる題名の絵本の棚を探そうとしましたが、男の子は、「このあたりにあった」と、「ふ」の棚を指さしました。

そして、①表紙には、たくさんの虹が描かれていた、②黒い表紙だった、③かがみみたいなのページがあった、など、たくさんのお話を覚えていてくれました。さらに、あるページでは、二つの虹が飛び出していて交差していたと、両腕をぐるりとひねりながら教えてくれました。

これだけの材料があれば見つけられそうですが、児童文化室の「ふ」の棚には、虹の絵本はありませんでした。県立図書館に所蔵している絵本の中から、「ふ」で始まる「虹」の絵本を見つけるのは難しいかもしれないと思い、インターネットで、「虹」の絵本を検索してみました。すると、男の子が話してくれたように、黒い表紙にたくさんの虹が描かれ、途中のページには、虹が交差して見えるような仕掛けが施された絵本があることが分かりました。

その絵本は、『ふしぎなにじ』（わたなべちなつ/作 福音館書店）でした。男の子に確認してもらおうと、まさにその本でした。残念なことに貸出中だったので、男の子は予約し、うれしそうに帰りました。

しっかりと本の特徴を覚えていてくれたおかげで、本にたどり着くことができました。男の子の読みたいという思いが本に通じたような、そんな気がしました。

## 新着図書案内

### 《一般図書》 2月12日（金）

- 『民話いっちょ、食べてみらんの』 川野栄美子/著 梓書院
- 『嘶家の女房が語る落語案内帖』 櫻庭由紀子/著 笠間書院
- 『越境する歴史学と世界文学』 坪井秀人/[ほか]編 臨川書店
- 『同姓同名』 下村敦史/著 幻冬舎
- 『わたしのおうち』 伊藤暢彦/著 新日本出版社

### 《児童図書》 2月23日（火）

- 『うんこ』 みやにしたつや/作絵 鈴木出版
- 『子どもの権利ってなあに?』 アラン・セール/文 解放出版社
- 『プロから学ぶ修理ずかん 1』 フレーベル館
- 『小学生でも知っておくべき! お金のはなし』 大谷清文/著 辰巳出版
- 『14歳の青い空』 竹村早智子/著 幻冬舎メディアコンサルティング

## 催し物の御案内

## 図書館職員のつぶやき

**まもなく終了します** 第3回貴重資料紹介展  
 「明治維新の舞台裏 ～高崎正風関係書簡から～」  
 場所：当館1階玄関ロビー  
 期間：2月24日(水)まで

県立図書館では、図書や雑誌など約87万点の資料を所蔵していますが、その中には歴史的価値のある貴重な資料も含まれています。普段は当館の書庫に大切に保管しており一般公開はできませんが、期間を限定して貴重資料を紹介する機会を設けています。

**一般閲覧室ミニ展示**  
 「あの人」の読書案内 2月28日(日)まで  
 「シンプルに生きる」3月2日(火)から31日(水)まで  
 一般閲覧室雑誌コーナー壁面に展示します。展示されている本は貸出できます。

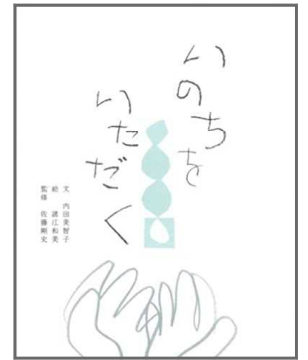
現在開催中の貴重資料紹介展では、幕末から明治維新へと激動の時代に翻弄されながらも、維新の志士として、宮廷歌人として活躍した高崎正風の関係資料を紹介しています。高崎正風は14歳の時、父がお由羅騒動で死罪になり自身も大島への流刑という悲運にあいます。逆境にも負けなかった高崎は、やがて国事に奔走し、宮内省に入り明治天皇に重用され初代御歌所長を務めました。

**児童文化室ミニ展示**  
 「むかしむかしのおはなし」 2月21日(日)まで  
 世界の昔話を集めました。  
 「ちょっぴり前向きになれる本」  
 2月23日(火)から3月21日(日)まで  
 新学期を楽しく迎えるための本を集めました。

努力の人、高崎の貴重資料紹介展は2月24日(水)まで、正面玄関ロビーで開催しています。ぜひ御覧ください。

## 県立図書館に届いた「宝本」エピソード

今回紹介していただいた宝本は、内田美智子/文 の『いのちをいただく』(西日本新聞社)です。



私が小学校低学年の頃に、お母さんが兄と私に読んでくれました。この本では、牛の命が題材になっていて、食べ物を粗末にしないことの大切さを教えてくれた本です。私のおばあちゃんの家では、牛を飼育して「せり」に出しているの、重ね合わせながら聞いていました。

自分たちが生きていくために動物の命をいただいていることをこの本を通して学びました。また、命の大切さや食の大切さが低学年ながらに実感できた本なので、私にとっての宝本になっています。



えほん『ちいさいおうち』ばーじにあ・リー・  
 ばーとん/文・絵 いしいももこ/訳 (岩波書店)  
 からのクイズです。

ちいさいおうちが、いなかでみていたのは  
 つぎのうち、どの木かな？  
 ①みかんの木 ②りんごの木 ③なしの木

**ヒント**  
 あかかったり、あおかったり……。

答え、自分の名前、利用者カード番号を書いて、児童文化室にある箱に、3月14日(日)までに入れてください。正解者のなかから抽選で20人にしおりなどのプレゼントを差し上げます。  
 前回の答えは「③おいけのまわり」でした。  
 たくさんの御応募ありがとうございました。



## 図書館カレンダー

	日	月	火	水	木	金	土
2月	14	15	16	17★	18	19	20◆
	21	22	23	24★	25	26	27
	28	1	2	3★	4	5	6
3月	7	8	9	10★	11	12	13
	14	15	16	17★	18	19	20◆

○ 開館時間 火曜日～土曜日：9時～21時  
 ※ 児童文化室は19時まで  
 日曜日・祝日(白抜)：9時～17時

- は、休館日
- は、学習室のみ開室(2月25日 9時～17時)
- ★ は、おはなしのじかん(毎週水曜日 15時30分～16時)
- ◆ は、土曜版おはなしのじかん(第3土曜日 14時～)
- ◇ は、一般閲覧室新着図書の日(2月26日、3月12日)
- は、児童文化室新着図書の日(2月23日)